

平成 30 年度 第 2 回意見交換会実施記録

1. 実施結果

- ・開催日時 平成 30 年 6 月 19 日 (火) 19:00~20:30
- ・会場 ラ・ホール富士 5 階研修室
- ・概要 新環境クリーンセンター循環啓発棟に関する市民との意見交換会。今回は、什器備品（展示）に関する意見聴取と、「市民が主役」の施設を目指すための運営主体や活動計画づくりワークショップ 2 回目を行った。ワークショップは、バースデイリングを応用した自己紹介・グループ分け、グループに分かれて「準備期間で大切だと思うこと 3 箇条」をつくり、発表した。
- ・出席者 市民 21 名
事業者 5 人（3 社）、設計施工監理会社 1 人、富士市職員 6 人、進行 1 人 計 13 人
- ・進行 坂本竜児（NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム スタッフ）

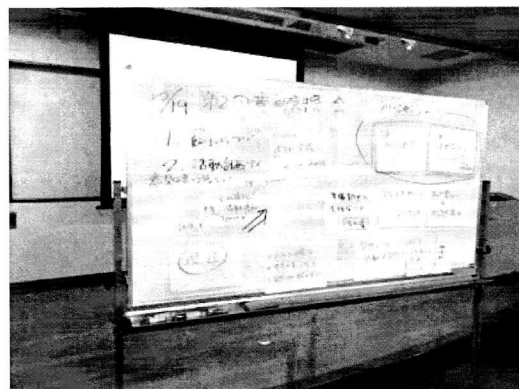
2. 内容

(1) 趣旨説明

- ・今年度前半、3 回の意見交換会を開催する趣旨を改めて説明する。
- ・2020 年 4 月に建物が完成し、10 月に環境学習施設がオープンする。お風呂と環境学習施設は、指定管理者として、グリーン工房が管理運営を行う予定となっており、その一部の環境学習施設を「市民が主役」の施設にしたいと思っている。
- ・市民が主役の施設というのは、①いったいこれはどういうことか？②どうやったら実現できるか？③誰がやるのか？について、今まで考えられなかったし、まだ誰も答えを持っていない。また、オープンまでに何が必要かも考えられなかった。そこで、活動計画づくりワークショップを行っている。
- ・活動計画づくりは短い時間になるので中途半端な計画になると思うが、みなさんの力で作り上げることが大切。計画は取り組みながら見直せばよい。1 回目はアイデア出し、2 回目は方針を考え絞り、3 回目はスケジュール化して計画に仕立てにしたい。
- ・2 回目となる今回は、準備期間中に大切だと思うことを話し合ってもらいたい。グループごとに 3 箇条をまとめて発表する。どんな活動を行うかは 3 回目に話し合う。
- ・活動計画を遂行していくためには予算と人手を確保する必要がある。また、活動計画をまとめる中にも事務局役は必要。希望する方がいれば、この会が終わった後に、食事に行きたいと思うので声をかけてください。



会議進行の様子



趣旨の説明内容

(2) 環境啓発設備に関する説明

①トータルメディアより

- ・つながる環境啓発施設というコンセプトで、生活と環境にまつわるコト・モノが「つながる」ことで、多くの学びや気づきが生まれる場所、そのための啓発設備をつくる。
- ・発見、気づき、体験、共感が循環し、富士市の環境交流を生み出す空間を作りたい。
- ・ごみの分別は、クリーンセンターやごみ処理と密接に関わっているため、理解を深め家庭での行動に結びつけられるようにしたい。
- ・情報交換ボードをつかって、もったいないアイデアを交換。掃除のアイデア募集などテーマを変えて募集することもできる。
- ・富士市に環境に関する様々な題材の体験キットとして「富士ものコトボックス」を製作する。引き出しにグッズが入っていて、1つのキットで4名程度が同時に学べるように。
- ・共有ゾーンには、富士市由来の廃棄物アートオブジェを置きたい。
- ・エントランスには、デジタルサイネージシステムを利用して、ウェルカム映像や活動紹介を流せるようにする。
- ・市民のリサイクルアートが紹介できる棚を設置する。
- ・交流ゾーンでは、再生された粗大ごみを展示する。
- ・体験学習ゾーンでは、シアター機能を持った多目的室。
- ・市民のアイデアで色々な活動ができる場所となる。

②意見・質問カード記入

- ・時間が短いので全体的な質疑の時間にせず、カードに記入して、トータルメディアが整理して回答をする。即答できないものもあると思うが、次回の宿題としたい。(記入時間5分程度)

(3) 活動計画づくり「アイデアだし」

①自己紹介とグループ分け

- ・アイスブレイクの一般的な手法、「バースデイリング」を応用して、会場から近い人順に並び輪になって全員で一言自己紹介を行い4グループに分かれた。

②意見交換

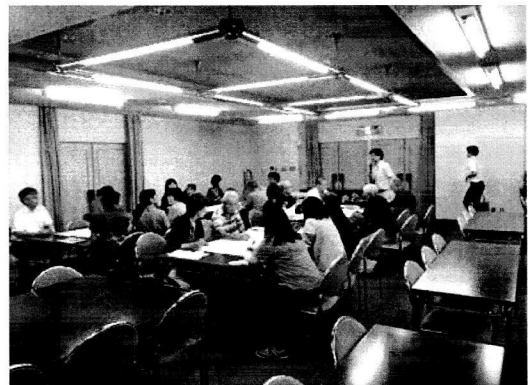
- ・グループに分かれて、模造紙の中心に今回のテーマ「準備期間で大切だと思う3箇条」を書いてもらい、自分でペンをとって名前を記入した。
- ・再度自己紹介と環境学習施設に関して大事だと思っていることを紹介しあった。ファシリテータが一番近い人がスタートで時計回り順、次の人がタイムキーパーで時間は1分、その他人は大事な意見を模造紙に記入をすることにした。
- ・自己紹介タイム(概ね5分)が経過したところに、フリータイム宣言をし、自由に話し合う時間をもった。
- ・終了5分前に「話し合ったことを絞って3箇条をつくってください」「発表者を決めてください。」と声掛けをし、まとめを促した。



啓発設備に関する説明



自己紹介とグループ分け



グループに分かれての話し合い

③発表

・各グループから出た3箇条は下記の通り

<p>■ 1班</p> <p>①地元愛を忘れない</p> <p>②実践者になろう、やりながら考えよう</p> <p>③関心をもってもらおう活動をしよう</p>	<p>■ 2班</p> <p>①富士市の人的財産を活かす</p> <p>②環境啓発施設を訪れた人が、その体験を自分のものとし、地域に戻ったときにその知識を広めていく</p> <p>③家族皆が楽しめるような、ハードだけではなく、プログラムであったり、空間であったり、そのような内容を作っていく</p>
<p>■ 3班</p> <p>①事務局を作る</p> <p>②環境啓発施設のターゲットを絞る</p> <p>③施設について説明をしたり、講座を開催するにあたり人員を調整する</p>	<p>■ 4班</p> <p>①三世代が楽しめるソフト</p> <p>②自然を考えるための施設</p> <p>③人の交流を作る施設にする</p>

(4) 環境啓発設備に関する回答

※答えやすいものをかいつまんで回答。次回、詳しく説明を行う。

Q.リサイクル家具を見せる展示として、修理前後がわかるようにしてほしい。

A.修理前に写真を撮り、展示品と合わせて掲示をすれば可能。

Q.紙の街、富士のアプローチが欲しい。

A.実施プログラムの中で、例えば紙すき教室など紙に関連するプログラムができないか検討したい。

Q.地場産品、富士ブランドの販売、障がい者施設のエコ商品などの販売はできないか。

A.余熱利用体験エリアの方で検討したい。どんな商品が扱えるかはこれから検討。

Q.リサイクルアート展示スペースの展示のサンプルはどのように集めるのか。

A.初期にこどもたちとワークショップを開催して、そこで得た制作物を展示することを考えている。

(5) 事務連絡

・次回の案内

・アンケートのお願い

・食事に行く人への案内

以上